

かばさきおおはし

樺崎大橋

(臨港道路 新樺崎1号線)

宇和島港の未来を支える橋



愛媛県

概要

宇和島港

宇和島港は、愛媛県南西部の宇和島市に位置する重要港湾であり、全国屈指の養殖業をはじめとする水産業など、地域の産業を支える物流の拠点です。

沿岸部には水産物の加工施設や荷さばき施設などが集積しています。マダイやブリなど多様な水産物の集荷から加工、出荷までを担う流通機能が形成されているなど、宇和島圏域の産業や市民生活を支える重要な社会基盤としての役割を果たしています。



樺崎大橋

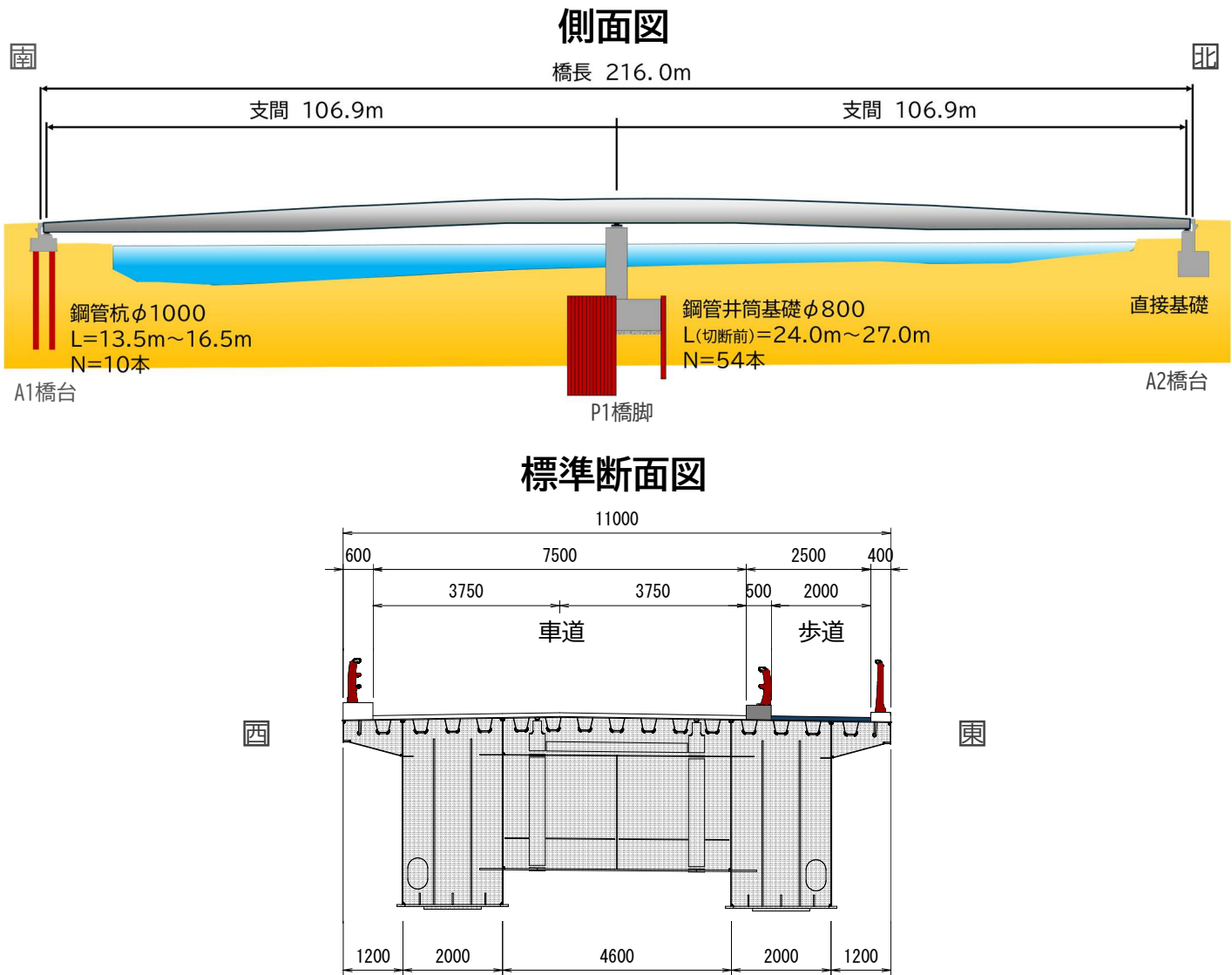
樺崎大橋は、宇和島港の臨港道路「新樺崎1号線」の一部として、須賀川の河口部を横断し、北側の大浦地区と南側の樺崎地区、築地・新内港地区を結ぶ橋梁です。

大浦地区に新たに整備された荷さばき施設などと既存の水産関連施設が立地している地区を直接結ぶことで、物流の効率化や生活道路の安全性向上、災害時における輸送機能の確保に寄与する重要な交通基盤です。

位置図



橋梁図



橋梁諸元

項目	内容
路線名	臨港道路 新樺崎1号線
橋梁名	樺崎大橋
形式	上部工 鋼2径間連続鋼床版箱桁橋 下部工 A1：逆T式橋台（鋼管杭基礎） A2：逆T式橋台（直接基礎） P1：壁式橋脚（鋼管井筒基礎）
橋長	全長 216.0m
支間長	106.9m + 106.9m
幅員構成	車道7.5m (0.5m+3.25m+3.25m+0.5m) 片側歩道2.5m (歩車道境界の地覆部を含む)
道路規格	第4種第2級
設計速度	40km/h
設計荷重	B活荷重

事業経緯

年月	内容
平成30年度	事業着手（測量・設計・用地買収等を順次実施）
令和2年8月	A1橋台（南側）着工
3年7月	A2橋台（北側）着工
3年9月	A1橋台（南側）完成
3年10月	P1橋脚着工
4年9月	A2橋台（北側）完成
4年12月	上部工着工
6年3月	P1橋脚完成
7年5月	上部工完成
8年4月19日	暫定供用開始（樺崎大橋供用開始）
8年7月3日	事業完成（取付道路(※)を含む全区間）

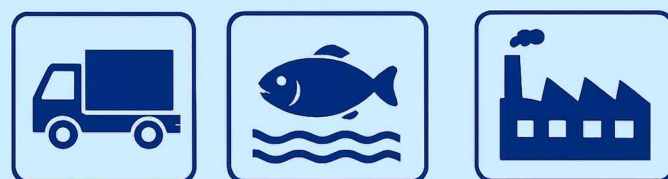
※ 取付道路の延長は、北側約160m、南側約150m

① 物流の効率化

宇和島港のさらなる発展を支えます。

大浦地区に新たに整備された水産物荷さばき施設などと既存の水産関連施設が立地する地区を直接結ぶことで、水産物をはじめとする物流の効率化を図ります。

臨港地区間の移動時間の短縮や輸送の円滑化が期待され、港湾機能の強化につながります。これにより、水産業をはじめとする地域産業の発展や、宇和島港のさらなる活性化に貢献します。



円滑な
輸送

水産業の
振興

地域産業の
発展



宇和島市水産物荷さばき施設
(令和2年5月開設)

② 生活道路の 安全性向上

地域の暮らしの安全を守ります。

これまで生活道路を通行していた車両のうち、大型車を含む一部が樺崎大橋を利用することで、生活道路の交通負荷軽減が期待されます。

住吉小学校周辺の通学路の安全性向上が見込まれるほか、歩行者や自転車がより安心・快適に通行できる環境づくりに寄与します。



交通環境の
改善

通学路の
安全性向上

安心して
暮らせるまち



住吉小学校 児童の通学状況
(令和8年6月)

③ 災害に強い まちづくり

災害時の輸送路を確保します。

平成30年7月豪雨の際には、大浦地区が災害廃棄物の仮置き場として活用され、その搬入・搬出のために生活道路が利用されました。樺崎大橋による新たなルートを確認することで、災害時における物資輸送や復旧活動を支える輸送ネットワークの強化が期待されます。

地域の防災力向上に寄与し、災害に強いまちづくりを支えます。



災害への
備えの強化

復旧活動の
支援

防災拠点の
連携



平成30年7月豪雨の際に災害廃棄物の
仮置き場となった大浦地区

樺崎大橋周辺図



樺崎大橋開通前後の
主な臨港地区間移動ルート

開通前 
開通後 

施工状況① 橋を支える基礎を築く

橋台の施工

橋の両端に、橋桁を支える橋台を施工しました。橋台は、橋桁の荷重を地盤へ伝える鉄筋コンクリート構造物で、地盤条件に応じて、A1橋台は鋼管杭基礎、A2橋台は直接基礎としています。



こうかんいづつきそ 鋼管井筒基礎の施工

橋の中央部の海中に鋼管井筒基礎を施工しました。仮栈橋から最大長27mの鋼管を円形に配置して海底に打ち込み、その内側の土砂を掘削した後、橋脚の基礎となるコンクリートを打設しました。



橋脚の施工

鋼管井筒基礎の上に橋脚を施工しました。橋脚は桁を支える重要な構造物であり、鉄筋を組み立て、コンクリートを打設することで構築しました。



施工状況② 橋桁ができるまで

橋桁の製作

橋桁は香川県多度津町の工場で作りました。高い精度が求められるため、品質管理を徹底しながら、鋼材の加工・溶接・塗装などを行いました。



海上輸送

製作した橋桁の部材は、安全かつ効率的に運搬するため、台船に載せて香川県から宇和島港まで海上輸送しました。



施工ヤードでの組立

工場から運ばれた橋桁の部材は、大浦地区の施工ヤードで組み立てました。大型クレーンで2つの大ブロックに仕上げ、起重機船による一括架設に備えました。

施工状況③ 起重機船による橋桁の架設

大ブロックFC一括架設工法

橋桁の架設には、クレーンを搭載した起重機船(フローティングクレーン:FC)を使用しました。大ブロックに組み立てた橋桁を海上から吊り上げ、ブロックごとに一括して架設位置へ据え付ける工法です。

するが 大型起重機船「駿河」

本工事で使用した大型起重機船「駿河」は、国内有数の吊り上げ能力を有し、大規模な橋梁架設などに用いられる船です。

長さ138m、重量880tの巨大な橋桁を一括で吊り上げ、樺崎大橋の架設工事を支えました。

樺崎大橋の橋桁	長さ	重量
先行架設桁(北)	138.0 m	880.3 t
後架設桁(南)	77.0 m	476.1 t

橋桁の吊上げ・移動

大浦地区の施工ヤードで組み立てた橋桁を起重機船で吊り上げ、移動・旋回しながら架設位置まで運搬しました。巨大な橋桁を海上で精密に取り扱うため、慎重に作業を進めました。



橋桁の架設

橋脚や橋台の上に、ミリ単位の精度で橋桁を据え付けました。位置や高さを確認しながら作業を進め、架設を完了しました。

その他の技術

潮位を考慮した架設時期

大型起重機船による架設には十分な潮位が必要でしたが、作業海域は水深が浅く、施工できる時期が限られていました。そのため、潮位データを詳細に分析し、作業に必要な水深が確保できる時期を選定したうえで架設を行いました。



施工領域安全監視システム

橋桁の架設時には、起重機船や吊り荷の位置をリアルタイムで監視する施工領域安全監視システムを活用しました。周辺を航行する船舶や港湾施設への影響を確認しながら、安全な施工を行いました。

チタン製の常設足場

橋梁の維持管理に使用する常設足場には、耐食性、耐風性、美観性に優れたチタン製のパネル(底面・側面)を使用しています。海に近い厳しい環境でも長期間にわたり性能を維持できるよう工夫しています。





愛媛県
土木部 河川港湾局 港湾海岸課
南予地方局 建設部 河川港湾課
令和8年7月